

**佐賀中学校校舎の建て替え
工事が始まります**

現在の校舎は昭和42年に建てられ、築後43年が経っています。建物の老朽化によりIs値（構造耐震指標）※が0.2と低いことから、近い将来起こるとされる大地震に備え、早急な建て替えが必要となっていました。

すでに仮設の校舎が完成しており、夏休み期間中の8月中旬からは現校舎の取り壊し作業に入ります。

佐賀中学校はひとつの節目を迎え、来年度完成予定の新校舎とともに、歴史の1ページをめくることとなります。工事にともない、近隣にお住まいの皆さんにはいろいろとご迷惑をお掛けしますが、ご理解と協力をお願いします。



※Is値:文部科学省では地震時における児童生徒などの安全確保を十分なものとするために、Is値0.7以上を標準値として設定しています。(写真は仮設校舎)

佐中祭が行われました

7月4日、現校舎での最後の佐中祭が行われました。

今年のテーマは「HAPPY IN ESS」愛されて10周年です。

「佐中は今年の夏休みに取り壊し、建て替えることになっているので、この校舎で佐中祭をするのは今年で最後になります。最高の思い出にしたいです。ぜひ来てください」。チラシに書かれたメッセージには、生徒たちの意気込みが伝わってきます。

昼過ぎから降り始めた雨のため校舎内での開催でしたが、身動きがとれないほどたくさんの方が訪れ、出店や出し物などで賑わいました。



体育館では吹奏楽部や大方高校軽音楽部の演奏をはじめ、ダンスやダニエルさんの歌もあり、大盛り上がりでした。



食べ物などを売る出店にはたくさんの行列が。早くから売り切れがでるお店もありました。

各教室では、学年ごとにカブト虫やアクセサリー、カットめしなどを販売。それぞれ工夫を凝らした出し物が並びます。中でも3年生のお化け屋敷やマッサージ店は、なかなかの人気を集めていました。佐賀地区唯一の中学校。訪れた方のほとんどがこの校舎で学びました。皆さん、お祭りを楽しみながら、中学生時代の思い出話にも花を咲かせている様子でした。



昭和42年、新築当時の校舎です。今では屋上まで伸びている教室の前のワシントン椰子はまだ植えられていません。この翌年度から拳ノ川中学校と合併し、旧佐賀町唯一の中学校となりました。その頃221人いた全校生徒は、現在87人。2階には空き教室が目立ちます。入学式、クラブ活動、文化祭、卒業式。思い出がいっぱい詰まった学び舎は、まもなくその役目を終え新校舎にバトンタッチします。(写真:昭和42年度卒業アルバムより)



0歳児も初めてのプール。お気に入りのボールでご機嫌。

保育所でプール開き
6月に入り、町内の各保育所でプール遊びが始まりました。6月23日は佐賀保育所のプール開きの日です。新しい保育所になって初めてのプールとあって、最初は保育士もシャワーの出し方さえ分かりませんでした。「夏の日差し」には程遠い梅雨空にも関わらず、園児たちは水着姿でプールに入るのが待ち遠しい様子。「友だちを後ろから押ししたり、乗ったりしないこと。プールの周りを走らないこと。先生のいない時には絶対にプールに入らないこと。約束できる？」プールは楽しくても、もしろいけれど危険もともないます。園長先生の注意事項にみんな「はい！」と元気に答えていました。

準備運動をしつかり済ませ

3歳児のうさぎ組から順にプールに入ると、「きやー、寒い！」顔つけれるで、見よってよ」とさっそく大騒ぎ。水深は20〜30cm程度ですが園児たちにとっては大プールと同じです。ボール遊びやバタ足、みんなで並んで波を作ったり。園長先生との約束もすっかり守れています。水を怖がる子もおらず、「さすが、くろしおっ子」と思わせる遊びっぷりで、ひと足早く夏に突入です。



これから水遊びの機会が多くなります。水の事故には十分注意して楽しみましょう。

プールから出た園児たちは、「楽しかった」「また泳ぎたい」と少し青くなった唇を震わせながら答えてくれました。

元気に育て〜ひまわりの苗

6月17日。梅雨入りにもかかわらず気持ちよく晴れたこの日、上川口小学校の2〜3年生9名がひまわりの苗を植えました。準備したのは背丈5〜6センチのポット苗約60個。中には10日ほど前から児童たちが学校で育てたものも含まれています。



夏には一面のひまわり畑。「夏が楽しみ。みんな見に来てね!」

場所は道の駅「ビオスおおがた」から西側の橋を渡ってすぐの畑で、お盆のころに咲かせようと3年前からこの時期に植えています。「月末には、ずうっと向こうまで植える計画です」企画した砂浜美術館の松岡さんは汗を拭きながら教えてくれました。児童たちは、ここまで自分で育てた小さな苗をひとつずつ丁寧に手に取り、20分ほどで全部植え終わりました。「咲いたら一番に見に来る！」夏の楽しみがひとつ増えました。

おかげさまで5周年

道の駅「ビオスおおがた」が今年で5周年を迎え、6月20日に記念イベントが開かれました。今にも雨が降りそうなあいにくの天気でしたが、子ども連れからお年寄りのグループまでたくさんの方が訪れ、ダンスやビンゴゲーム、地元食材の出店、手づくりの箸を作る体験教室など、さまざまな催しで楽しめました。



町内外からの大勢のお客さんにぎわいました。

これからも、黒潮町ならではの個性豊かなにぎわいのあえる空間となり、活力ある地域づくりに役立つことを期待します。

ナイター設備をご利用ください

国の地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業を利用し、大方球場（補助球場）にナイター設備を設置しました。今年4月からご利用いただけます。



職場仲間でも、サークルで、どんどんご利用ください。

取材に伺った日は、町内一般のソフトボールチームによる『黒潮リーグ』の試合が行われていました。日が暮れた松原にグラウンドだけが明るく浮かび上がり、ナイトゲーム独特の雰囲気漂います。「ナイスバッティング!」「回れ!回れ!」。平日にも関わらず、仕事の疲れを感じさせないハッスルプレーで、皆さん気持ちの良い汗を流していました。予約状況や料金については事前にお問い合わせください。

○使用に関するお問い合わせ

本庁総務課 総務係

☎ 43-2112 (直通)

役場の仕事を学習したよ

6月11日、入野小学校の3年生27名が「総合的な学習」の時間を利用して、黒潮町役場の仕事を学習しました。この日の一日講師は総務課消防防災係の職員です。

まず、北海道南西沖地震による奥尻島の被害状況の写真をしながら、地震や津波などの災害対策について説明を受けました。津波に流された家屋が写しだされると「うわー、怖い！」と叫ぶ児童もおり、「津波のときはどんなことに気を付けたらいいですか?」など、いろいろな質問が出されました。「大地震が起こったら黒潮町も同じような被害が予想されます。どこに高台があるのか、どこに逃げるのが良いのか、普段から準備しておくことが大切です」子どもたちは職員の説明に真剣に耳を傾けながらメモをとっていました。

その後、移動した先は入野小学校の横にある防災倉庫です。登下校の際いつも目にする倉庫ですが、中を見るのはみんな始めて。扉を開けると、水や毛布、テントや簡易トイレなど災害時に必要な道具が

ぎっしり詰まっています。中でもみんなが興味を持ったのは簡易トイレ。変わった形をしており、実際座ってみた児童は興味津々で座りごこちを確認していました。

次に体育館では、担架だけが人を運ぶ実技や、非常食の試食などをしました。担架に横になり持ち上げられた児童は、最初は喜んでいたものの、現実味を感じたのか「怖かった」と少し緊張した表情で答えていました。



傾けをした人を気遣いながら、傾けないよう「せーの」で持ち上げます。

南海地震は今後30年で60パーセント程度の確立で起こると予測されています。地震はいつ起こるか分かりません。普段の生活の中で、災害時にどう行動するのか意識し何をするのか、事前の備えが必要だということを知った児童たちは実感したようでした。

「河川プール」オープン

7月2日、蜷川の河原に悲鳴にも似た歓声が響き渡りました。「ギャー、冷たッ!」。声の主は、すぐそばの上川口小学校の児童たちです。



同小学校にはプールが無いので、普段は南郷小学校のプールを借りて水泳の授業を行っています。しかし、毎年7月に入ると河川プールでの授業も組み込まれており、この日はそのプール開き。

「今日は楽しいプール開きです。みんな、仲良く、楽しく、元氣よく泳いでください」。児童会長林良磨君の挨拶の後、一列に並んでゆつくりと水に入ります。蒸し暑い天気にも関わらず、自然の水は体が固まってしまいうるほど冷たく、いつものプールとは一味

違います。



1年生にとっては初めての授業。上級生に手を引っ張ってもらいコツを習います。



自由時間には、流水滑り台をしたり、川エビを捕ったり、学校のプールではできない特別な授業にみんな大はしゃぎ。PTAと合同の草刈や5、6年生による川底のコケ掃除、保護者の監視協力など、地域ぐるみで大事に管理してきました。上川口小学校にしかない自慢の教材のひとつです。

くぼかわ病院では「看護師」を募集しています

くぼかわ病院は、急性期医療はもとより、回復期リハビリ病棟、療養病棟、老健施設、訪問看護ステーションを有し、地域の中核病院として、診療科目も多岐にわたり、様々な経験を積むことができます。

【給与】

● 基本給/19万3千円(経験を加味します。)

● 各種手当/資格手当、皆勤手当、夜勤手当など

● 賞与/年2回

● 昇給/年1回

【休日】 週休2日制

● 年末年始、夏季休暇、有給休暇、育児休暇など

【勤務】 2交代制

【社会保険】 健康保険、厚生年金、雇用保険、労災、退職金制度

【研修】 院外研修に積極的に参加できます。

【福利厚生】 24時間託児所、職員宿舎、昼食代補助、職員旅行

○お問い合わせ
医療法人川村会くぼかわ病院
看護部長 松下厚子
高岡郡四万十町見付902-1

0880-122-1111

町内海水浴場海開き

7月4日(日)には浮津海水浴場が、翌週10日(土)には入野海水浴場がそれぞれ海開きのイベントを行いました。

県が先ほど実施した平成22年度水質検査によると、町内2カ所の海水浴場はともに「水質AA」と最高等級。トイレやシャワーなどの設備も整っており、海水浴客に人気があります。

両日とも好天に恵まれ、小学生以下を対象とした「お菓子なげ」や「宝さがしゲーム」に、小さなお子さんだけでなく



浮津海水浴場

国道からすぐの浮津海水浴場は、町内海水浴場の老舗。トイレ、シャワー、更衣室があり、キャンプやバーベキューもできます。懐かしい雰囲気「海の家」が訪れた方を引きつけます。

く近所のお年寄りの方も元気に参加。会場にはにぎやかな声も響き渡っていました。



入野海水浴場

平成16年にオープンしたばかりの入野海水浴場にはウッドデッキや芝生のスペースがあり、リゾート地に来た気分。こちらにもトイレ、シャワー、更衣室などの施設が整っています。

イベントに参加した大西町長は、「たくさんの方に来てもらいたい。事故もなく、楽しい時間を提供できたらうれしいです」とあいさつ。両海水浴場の遊泳期間は8月31日まで、遊泳時間は午前9時～午後5時となっています。

○お問い合わせ
浮津海水浴場

☎ 43-0305

入野海水浴場

(高知県漁協入野支所)

☎ 43-11010

集落丸ごと活性化研修会開催

高知県の中山間は、高齢化により集落行事が減るなどして住民同士の交流が減少し、集落機能を維持することが厳しい状況にあります。

しかしそこには、その土地ならではの農産物や美しい景観、加工技術を持った人材、伝統文化など、数多くの資源が存在しています。

そして、その資源を活かしたさまざまなサービスを提供することで、人を呼び込み集落を活性化させることが期待できます。

7月12日(月)、「であいの里蝸川」には県内自治体職員や地域再生に取り組む団体関係者などが参加し、集落の活性化を図っていくためには、リーダーや住民がどのように考え、行動すればよいかを学びました。



講師に招かれたのは、鹿児島県柳谷町で13年間、渡り地域再生に取り組んでいる「柳谷町内会やねだん」代表の豊重哲郎さん。

「行政に頼らない。地域でできることは地域でやっという」を合言葉に、観光資源や産業のない集落で実現した、地域活性化の経験をもとにお話をいただきました。発足当初の苦労や、賛同を得たときの感動、自主財源確保のためのアイデアなどを情熱的に話す姿に、皆さん引き付けられていきます。

その他にも、蝸川をはじめとする県内集落の活動報告や加工品などの販売があり、充実した研修となりました。

また、蝸川の下村区長はあいさつで、「蝸川でこの取り組みを始めてから、地域に人が訪れ、子どもたちの声があちらこちらで聞かれるようになった」と、これまでの成果を実感している様子。その他にも、蝸川をはじめとする県内集落の活動報告や加工品などの販売があり、充実した研修となりました。

また、蝸川の下村区長はあいさつで、「蝸川でこの取り組みを始めてから、地域に人が訪れ、子どもたちの声があちらこちらで聞かれるようになった」と、これまでの成果を実感している様子。その他にも、蝸川をはじめとする県内集落の活動報告や加工品などの販売があり、充実した研修となりました。

職員採用資格試験のお知らせ

次のとおり黒潮町一般行政職員の採用資格試験を実施します。

【応募資格】

昭和55年4月2日から平成5年4月1日までに生まれた方

【受付期間】

8月23日(月)～9月17日(金)

【試験日時】

10月17日(日)午前10時～正午

【場所】

黒潮町保健福祉センター

2階 大ホール

※なお、この試験は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの間の、採用資格を獲得するための試験です。

資格を有する人の中から必要に応じて採用を決定しますので、合格した人であっても、場合によっては、採用されないこともあります。

○お問い合わせ

本庁総務課 行政人事係
☎ 0880-43-2112(直通)